

2024 年度事業報告

I. 2024 年度事業方針

世代を超えた食文化研究の永続的な発展と、食文化の普及啓発へのさらなる貢献を目指す。
食文化研究者の発掘・育成と研究・交流の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、
成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2024 年度事業概要

1. 食の文化フォーラム

(1) 2024 年度 食の文化フォーラム

年間テーマ『食の欲望論』

コーディネーター・総合司会：小林 哲 氏（大阪公立大学）

共同コーディネーター：藤本 憲一 氏（武庫川女子大学）

セッション	タイトル	スピーカー(敬称略)
1. 既存の食の欲望の常識を疑う —動物、霊長類・人間、民族社会— 開催日： 2024年6月29日	① 趣旨説明 ② なぜそれを食べるのか：人類の食の進化 ③ 人類にとっての共食・共飲とは —「狩猟採集民」の視点からの展望 ④ 酒を食事とするエチオピア農耕民 ：生きるために楽しむために飲む	① 小林 哲（大阪公立大学） ② 上野 吉一（中部大学） ③ 池谷 和信（国立民族学博物館） ④ 砂野 唯（新潟大学）
2. 現代の食 —嗜好か病気か— 過食・拒食・偏食(ヤミツキ)・禁食 開催日： 2024年10月5日	① 振り返りと第2回開題 ② 脂肪の口腔内認識と高嗜好性発現機構 ：執着の発生機構について ③ 食の欲望とその制御：薬物依存との対比から考える ④ 拒食と過食 人類学の観点から	① 藤本 憲一（武庫川女子大学） ② 伏木 亨（甲子園大学） ③ 廣中 直行（メディフォード株） ④ 浮ヶ谷 幸代（自治医科大学）
3. 新たな食への欲望 ファッションフード、フードテック、宇宙食 開催日： 2025年3月8日	① 振り返りと第3回開題 ② 〈健康欲〉は日本の食をどう変えてきたのか ：熱狂と欲望のヘルシーフード150年 ③ フードテックが織りなす未来和食の世界 ：新たな「食への欲望」と技術革新 ④ 宇宙食と宇宙飛行士 ～カプセル宇宙船からスペース シャトル、宇宙ステーション、そして月・火星へ～ ⑤ 全体討論	① 小林 哲（大阪公立大学） ② 畑中 三応子（ジャーナリスト） ③ 亀岡 孝治（三重大学） ④ 中沢 孝（元JAXA）

(2) フォーラム記録書籍の発行

2023 年度フォーラムの成果を記録書籍として出版

『現代“間食”考—狭間からみる人類の食』（野林 厚志 氏 編）

1 月 23 日 平凡社より刊行



2. 食の文化シンポジウム

(1) シンポジウム（単独開催）

テーマ：『間食—人間社会を映す鏡—』

趣旨説明 野林 厚志 氏（国立民族学博物館）

講演 「食事文化と間食」 野林 厚志 氏（国立民族学博物館）

「栄養疫学からみた間食」 佐々木 敏 氏（東京大学）

「おやつは愛情の味・・・か？」 橋本 周子 氏（関西学院大学）

トークセッション モデレータ：野林 厚志 氏

パネリスト：佐々木 敏 氏、橋本 周子 氏

2月25日 会場参加・同時配信ハイブリッドにて開催（会場参加39名、オンライン74名）

(2) 共催シンポジウム：人間文化研究機構共催

テーマ：『方言で味わう郷土食の多様性—変化と継承が紡ぐストーリーをたずねて—』

講演 「地図で見る食の方言の多様性—調理物・調理法・味覚のことばの分布」

大西 拓一郎 氏（国立国語研究所）

「料理への名づけと継承のありよう—郷土料理くしもつかれ>に注目して」

新井 小枝子 氏（群馬県立大学）

「料理の定型化とことば—日本各地の雑煮に注目して」

中井 精一 氏（同志社女子大学）

トークセッション モデレータ：大西 拓一郎 氏

パネリスト：中井 精一 氏／新井 小枝子 氏／

土井 善晴 氏（料理研究家、「おいしいもの研究所」代表）／

東四柳 祥子 氏（梅花女子大学）

12月13日 会場参加・同時配信ハイブリッドにて開催（会場参加91名、オンライン209名）

2月26日より味の素食の文化センターおよび人文機構のYouTubeにて収録映像配信

視聴数：計595（2025年5月12日現在）

3. 食の文化研究助成

(1) 研究助成応募システム導入：業務効率化、応募者・助成者のデータベース管理が可能に

(2) 2024年度食の文化研究助成（2024年7月1日～8月31日募集）

オンライン申請となり応募数増加（対前年1.5倍）、応募48件から選考委員会で10件採択

研究課題 研究者（申請時の所属・肩書）	共同 研究者	助成額 （千円）	研究期間 （年）
渡り鳥を利用した発酵食品の文化・生態的役割：ラオス北部山地の「漬けツバメ」を事例に 佐々木 恩愛（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）	—	847	1
東・東南アジアの歴史を動かした漁撈民—ベトナムの魚醤文化から読み解く— 白石 哲也（山形大学 学術研究院 准教授）	2	1,000	1
食支援の拡大過程における子どもの食の意味づけ：「子ども食堂」言説および実践者の語りの分析 豊島 伊織（京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程）	—	995	2
難民化による食文化の融合と発展—避難先で広がるシリア難民の故郷の味— 中西 萌（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）	—	1,000	1
台湾の「雲泰料理」に見る「孤軍」の歴史：記憶のつながり・断絶・読み変え 福田 真郷（京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士課程）	—	1,000	1
ニューカレドニア先住民カナックにおける「食べない」ヤマイモの社会的役割 増田 桃佳（東京大学大学院 医学系研究科 国際保健学専攻 人類生態学教室 博士課程）	—	1,000	2
外来魚の定着に伴う魚食文化の変容過程とその要因の解明—ベトナム・メコンデルタを事例に 皆木 香渚子（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）	2	1,000	2
南アルプス山麓における在来作物に関する在来知の保存と継承に向けた可能性の探求 村橋 勲（静岡県立大学 国際関係学部 助教）	1	1,000	1
インド・西ベンガル州のハンセン病コロニーにおける人々をつなぐ「食」の人類学的研究 八木 咲良（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程）	—	1,000	2
先端的赤外線撮影と実験考古学的手法に基づく日本古代製塩法の復元 山中 良平（赤穂市教育委員会 主査）	—	995	1



(3) 2024 年度贈呈式・中間報告会 (3 月 4 日)

助成対象者 10 名 (会場 7 名、収録 3 名)、中間報告者 6 名 (会場 5 名、収録 1 名) 参加

4. 食文化誌『vesta』

(1) 販売実績

	特集テーマ	アドバイザー	雑誌販売数 (~2025.3)	電子版購読者数(UU)			発行月
				Kindle (~2024.12)	auブックパス (~2025.3)	楽天マガジン (2025.1-3)	
134	ミツバチとハチミツの食文化	眞貝 理香氏	1,664	198	51	36	4月
135	進化する宇宙食	山田 研氏	1,283	171	28	25	7月
136	地域のそば	松島 憲一氏	1,381	475	112	94	10月
137	麺が描く世界地図	守屋 亜記子氏	1,308	未	68	3,895	1月
		前年比	114%	222%	85%		

(2) 「みる vesta～食文化の世界～」制作

特集ごとに内容を紹介する映像 (1 分、約 15 分) を制作

2024 年度特集 4 テーマ (計 8 本) 制作、YouTube・Instagram にて公開

視聴数：計 4,433 (2025 年 5 月 12 日現在)

(3) 「聴く vesta」：『vesta』の特集内容を掘り下げて学べる公開講座を開催

テーマ：『ミツバチとハチミツの食文化 ～養蜂文化の多様性と「テロワール」が支えるもの～』

講演 眞貝 理香 氏 (東京大学) (『vesta』特集「ミツバチとハチミツの食文化」アドバイザー)

1 月 31 日 会場参加形式にて開催 (会場参加 58 名)

5. 公開施設 (ライブラリー・企画展示室)

(1) ライブラリー実績 (2025 年 3 月末現在)

リニューアル工事により 10 月 1 日～1 月 31 日休館 (貸出予約・返却のみ継続)

新規購入冊数	676冊	(対前年比 62.9%)
来館者数	3,474人	(対前年比 86.2%)
新規会員登録数	218人	(対前年比 80.7%)
貸出冊数	3,453冊	(対前年比 72.5%)
画像データ有償提供	10件(20作品)	(対前年比 66.7%)

(2) ライブラリーリニューアル

リニューアルコンセプトを決定し、設計・施工後、新たなレイアウトにて図書を再配置。

「リビングと書斎が入り混じる居心地のよい空間で、食文化への飽くなき探究心を満たす」

2 月リニューアルオープン (2 月 1 日プレオープン、2 月 14 日日本オープン)

図書との出会いを誘う入口展示、財団活動紹介コーナー、小イベント可能な閲覧室等を整備。

(3) 企画展示

2024-2026 年度の 3 か年にわたる展示企画の第 1 回目を実施。(8 月 1 日～9 月 25 日)

『大日本物産図会』にみる「食・時代・人々」ー第 1 回「日本の食文化」

第 2 回企画展示の概要を決定、展示グラフィック、チラシ、小冊子デザイン制作に着手。

第 2 回「海の恵み 山の恵み」(2025 年 8 月 1 日～9 月 27 日開催予定)

企画・監修：曾田 めぐみ 氏 (東京藝術大学 大学美術館)

(4) 外部企画協力／資料貸出

・港区高輪図書館・港南図書館との共催にて教養講座 (講演会) を開催 (7 月 27 日)

講師：湯澤 規子 氏 (法政大学)

テーマ：『「おやつ」からひもとく日米女性の交流秘史～私の人生を生きるために』

・MIHO MUSEUM「うましうるはし日本の食事」展 (9 月 28 日～12 月 15 日)

錦絵 11 点、江戸の書籍等 10 冊を貸出

・船橋西図書館『大日本物産図会』と美食探訪展 (2 月 8 日～4 月 6 日)

「芝居小屋の幕の内弁当」レプリカ等を貸出

6. 新・公開講座

(1) 学生向け公開講座

食文化へ関心を持つ若年層の拡大に向け、講義・グループディスカッション・実習などを含んだ授業を行い、日本の食の歴史、そして世界の食文化へ広く関心を持つきっかけ作りを支援する。
前年度までに実施した留学予定者向けの食文化関心喚起に加え、今後、食文化への関心層を広げることを目指し、探究学習の一環として、中学・高校への提案につなげていくことを決定。

7. Web・SNSを通じたコミュニケーション

- (1) Web サイト訪問者：年間のべ 163,290 人（前年比 173%）、348,542PV（前年比 122%）
- (2) Facebook:2025 年 3 月末フォロワー 2,064 人（前年比 106%）、いいね！1,771 人（前年比 104%）
- (3) Instagram：2025 年 3 月末フォロワー 1,126 人（前年比 230%）
- (4) YouTube：2025 年 3 月末チャンネル登録者 832 人（前年比 133%）
- (5) メールマガジン：月 1 回発行 2025 年 3 月末会員 3,260 人（前年比 109%）

Ⅲ. 2024 年度法人運営

1. 評議員会・理事会

	開催年月日	主な議事
定時評議員会	2024年6月26日	第1号議案「議長選出の件」 第2号議案「議事録署名人選任の件」 第3号議案「2023年度事業報告と決算に関する件」 [報告事項] ①「味の素株式会社および関連企業との2023年度取引実績」
第1回理事会	2024年5月29日	第1号議案「2023年度事業報告と決算に関する件」 第2号議案「2024年度定時評議員会開催に関する件」 第3号議案「食の文化研究助成対象選考委員会選考委員選任の件」 [報告事項] ①味の素株式会社および関連企業との2023年度取引実績 ②代表理事 業務執行報告 ③業務執行理事 業務執行報告
第2回理事会(書面開催)	2024年11月20日	第1号議案「2024年度食の文化研究助成対象の採択の件」
第3回理事会	2025年3月5日	第1号議案「2025年度事業計画及び予算案の件」 [報告事項] ①2025年度における味の素株式会社およびその関連企業との取引予定金額の件 ②代表理事 業務執行報告 ③業務執行理事 業務執行報告

以上